

やまなしの福祉

1 No.339
2018
月号

特集

地域のつながりを考える



写真: 1人暮らしの高齢者宅で清掃ボランティアをする韮崎工業高等学校の生徒たち
(上段)左: ボランティア出発式 右: 庭の枯れ木の撤去作業 (下段)お年寄りからお礼の言葉をかけられる(関連記事P2、3をご覧ください)

- P2 韮崎工業高等学校ボランティア
- P4 甲府市伊勢地区社会福祉協議会
- P5 山梨県社会福祉大会
- P6 いきいき山梨ねんりんピック
- P7 全国健康福祉祭あきた大会
- P8 生活困窮者自立支援制度普及研修会
- P9 社協ボランティアセンター情報コーナー
- P11 福祉用具紹介

地域のつながりを考える

高齢化や人口減少が進む中、山梨県でも1人暮らしの高齢者世帯や高齢者夫婦世帯は年々増加しています。こうした中、高齢者だけでは難しい植木の手入れや庭の草取り、蛍光灯の取り換えなどは、地域の手助けがあれば住み慣れた自宅で暮らしていくことができる高齢者も多く、地域で助け合う活動の広がりが期待されます。

そこで今回は、地域の高齢者宅でボランティア活動を行っている**韮崎工業高等学校**の活動と、甲府市伊勢地区社会福祉協議会のサロン活動から、地域のつながりの大切さについて考えます。

自宅を訪問、掃除や電化製品修理

韮崎工業高等学校



1人暮らし高齢者宅でボランティア活動をした
韮崎工業高等学校2年の名取魁人さん(左)と木内友哉さん

韮崎工業高等学校は、韮崎市内の1人暮らしの高齢者宅でボランティア活動を行っています。「大変だったけど、いい経験になりました」。2年生の名取魁人さんと木内友哉さんは活動を振り返り、こう口をそろえます。

20年以上続くボランティア

高齢者宅でのボランティア活動は、「ボランティア活動普及協力校」として韮崎市社会福祉協議会と連携し、1996年度にスタート。協力校としての事業は2年間でしたが、その後も活動は続き、現在は夏と冬の年2回、ボランティア委員会に所属する生徒36人が、1人暮らし高齢者宅を訪問。草取りや庭木の手入れをはじめ、室内外の清掃、電化製品の修理など、高齢者の希望に沿って活動しています。

自分にできることを考える

高齢者宅で草取りをした木内さんは「暑い中での作業で疲れましたが、お年寄りが『助かったよ』と喜んでくれて、やってよかったと思いました」と感想を話します。これまでは近所の1人暮らしの高齢者に対し、「大変そうだなと思って、自分が何か手助けをするのは勇気があることで、できませんでした」と言います。ボランティアに参加したことで、まずは祖母の畑仕事を手伝う気持ちが生まれ、「これからお年寄りにはさらに増えていくので、自分に何ができるかを考えるようにもなりました」と言います。

高齢者も住みやすい地域に

名取さんも高齢者宅でボランティアを経験したことで、祖父の農作業の手助けをしたいと考えるようになったそうです。さらに、「自分たちの活動は小さなことですが、お年寄りは喜んでくれます。こうした取り組みが広がっていけば、1人暮らしで手助けが必要な高齢の方も住みやすい地域になると思います」と地域福祉に思いを寄せるようになりました。

2人はこれからも活動が続いていくことを望んでいて、「僕たち若い世代には体力があり、力仕事も手伝えます。自分にとって有意義な体験になるので続けてほしいです」と木内さん。名取さんは「気持ちが大切で、人を助けられたらいいなという気持ちを持って活動してもらいたいです」と後輩に呼び掛けます。

地域から学校に感謝の声

2人のように、ボランティア活動をきっかけに意識が変わった生徒は多いといいます。ボランティア委員会顧問の松木哲也教諭は「自分にもできることがあり、誰かのために役に立ちたいという気持ちを持てるようになってきました」と変化を語ります。

通学途中で出会った高齢者にあいさつして会話をする生徒、街中で困っている高齢者を手助けする生徒。一。葦崎工業高等学校には地域住民から、こうした生徒への感謝の声が寄せられています。



松木哲也教諭は「地域と学校がつながることは大事」と語ります

それぞれの地元でも活動を

核家族で高齢者と接する機会があまりない生徒もいる時代、松木教諭は、ボランティア活動が高齢者の現状や社会の在り方を考える良い機会になると感じています。「年を取ると体が不自由になったり、日常生活が大変になったりすることを肌で感じることができます。自分がそうなったとき、どういう社会だったらいいのかを考えながら活動する生徒もおり、成長する機会になっています」

今後の活動について、「新たに希望してくださった高齢者を訪問し、より多くの方のお役に立つように活動していきたいと考えています。同時に、一生懸命な生徒たちの姿をたくさんの方に見ていただきたいです」と語ります。市外から通う生徒も多いことから、それぞれが自分の暮らす地域でもボランティア活動をするようになってほしいと期待も寄せています。

福祉の専門性生かし連携

葦崎市社会福祉協議会

葦崎市社協によると、葦崎市の高齢化率は27.9%、要介護認定率は13.1%と、いずれも県平均よりも低く、農業に従事するなどして生き生きと暮らす高齢者が多いそうです。1人暮らしの高齢者は約1900人で、このうち支援を必要とする人の自宅で、葦崎工業高等学校の生徒がボランティア活動を行っています。

多忙な学校の負担を減らす

生徒が訪問する高齢者宅を選定するのが葦崎市社協。葦崎市地域包括支援センターや市内の居宅介護支援事業所に呼び掛け、支援を必要とする高齢者を募ります。

「福祉的な視点から対象者を選ぶことができ、事業所なども安心して高齢者を紹介することができます」と、葦崎市社協の生活支援コーディネーター・小林翔さんは社協の役割を語ります。福祉の専門性という社協の強みを生かすとともに、学校になるべく負担がかからないように連携することが大切で、「学校現場は多忙です。活動の直前ではなく、学校の年間計画に合わせて事前に打ち合わせをしておくスムーズです」と話します。

見守りの体制につなげたい

1人暮らし高齢者宅でのボランティア活動は毎回、定員を超える応募があるなど高齢者に人気で、「孫と触れ合っているみたいだ」と生きがいにしているリピーターもいるそうです。「とても有意義な活動だと感じています。生徒たちは熱心で、配線や電化製品の修理など、学校で学んだ知識と技術も発揮してくれています」と感心します。

少子高齢化や核家族化がさらに進み、1人暮らしの高齢者は増えることが予想されています。「これからもボランティア活動を継続してもらえるとありがたいです。活動をきっかけに、訪問した高齢者宅の近くを通ったら変わった様子がないか見てみる、通学路で会ったらあいさつするなど、高齢者を見守る体制ができればいいと思っています」

学生がボランティア活動に参加することについて、小林さんは「若者はパワーがあり、地域が活性化される」と感じています。葦崎市社協では本年度から、フェイスブックでの情報発信も始め、より多くの若者にボランティアへの参加を呼び掛けています。

温かく見守ることができる地域に

甲府市伊勢地区社会福祉協議会

1人暮らしや閉じこもりがちな高齢者らが地域の中で交流する場「いきいきサロン」。住民が主体となり山梨県内各地で開かれています。甲府市伊勢地区では社協、民生委員児童委員協議会、愛育会の3団体が連携して2004年から続けられています。月1回、伊勢悠遊館で趣向を凝らしたサロン活動を行っていて、寒い時季は午後、暑い時季は午前を開くなど、高齢者が参加しやすいように細かな配慮も忘れません。



「少しのサポートがあれば、1人暮らしができる高齢者は多いです」と話す深澤秀代さん(左)と市村浪江さん(右)＝甲府・伊勢悠遊館

サロン活動は多彩なメニュー

「ただ楽しいだけでなく、得るものがあるように工夫しています」と伊勢地区社協の福祉推進員・深澤秀代さん。体操や保健師の健康アドバイス、脳トレをはじめ、歌、レクリエーション、講師を招いての勉強会など、その内容は多彩。年度末には体力測定も行い、1人1人に結果を手渡しています。また、お茶を飲みながら会話を楽しむ時間には、スタッフ手作りの料理も振る舞います。

福祉推進員の市村浪江さんは「帰る時は皆さん、はつらつとしたいい顔をされています。人と触れ合い、おしゃべりをするのがいいのではないのでしょうか」と話します。

毎回、伊勢地区全域から60人ほどの高齢者が集いますが、声掛けしても参加を躊躇する高齢者もおり、特に男性の参加率は低いそうです。自治会単位のサロンもありますが、伊勢地区すべての自治会にあるわけではなく、市村さんは「家のすぐ近くでサロンが開かれていれば、お年寄りも顔見知り同士なので参加しやすく、車の運転ができなくても行くことができます」と活動の広がりを望みます。深澤さんは自治会単位のサロン活動も行っていることから、「仲間がいて、うれしい話も愚痴も吐き出せる場は大切」と感じています。

「持ちつ持たれつ」の関係

1人や夫婦2人など高齢者世帯が増えているという伊勢地区。市村さんと深澤さんは、食事作りが困難な高齢者にお弁当を届ける配食ボランティアもしている経験を踏まえ、「日頃から住民同士がつながり、見守る体制が必要」と強調します。配食ボランティアの訪問を心待ちにし、顔を見るとせきを切ったように話し出す高齢者も多く、定期的に顔を合わせることで、認知症など高齢者の変化に気付くこともできるといいます。

一方で、ボランティアの担い手が高齢化していることを課題に挙げます。2人は「若い方は仕事があるので難しいと思いますが、定年退職後の元気な方たちが参加して下さると、ありがたいです」と参加を呼び掛けます。

地域のつながりが希薄化しているといわれる時代ですが、深澤さんは「『遠くの親戚より近くの他人』です。日常を見ている住民同士だからこそ気付けることがあり、そうした関係がないと、災害時大変なことになってしまいます」と地域の大切さを語ります。市村さんも同じ思いを抱いています。「認知症の高齢者も温かく見守り、その方が暮らしやすい地域になることが大切と思っています。お年寄りの姿は、誰もがいずれ行く道。地域は『持ちつ持たれつ』ではないでしょうか」

地域の“つながり”と“助け合い”が大切

今回、韮崎工業高等学校の活動と甲府市伊勢地区社協のサロン活動を取り上げました。2つの団体の活動は、高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らすため、若者から高齢者まで地域に住む人々のつながりや助け合いが大切であることを示しています。

かつての地域は、隣近所や家族同士の“つながり”によって人々の生活は支えられてきました。しかし、高齢化や人口減少の急速な進行、また情報通信技術の目覚ましい発展などにより、地域や人々のつながりが弱まり、「社会的孤立」や制度だけでは解決できない問題も浮き彫りとなっています。

こうした問題は、公的制度や専門家だけで解決できるものではなく、地域の多様な資源を活用しながら、世代や社会的立場を超えた住民同士の“つながり”と“助け合い”が今、こうした時代だからこそ求められています。

第65回山梨県社会福祉大会を開催

～ 民生委員制度創設100周年～

107名、37団体が 山梨県社協会長表彰・感謝状を受賞

11月21日、山梨県社会福祉協議会は山梨県共同募金会との共催により甲府市のコラニー文化ホールで、「第65回山梨県社会福祉大会」を開催しました。今年は民生委員制度創設100周年を迎え、地域共生社会の可能性についても考える大会となりました。

大会には、市町村社協や民生委員児童委員の方々をはじめ、県内の福祉関係者など約1,100名が参加する中、県知事表彰、県社協会長表彰・感謝状の贈呈、また中央共同募金会感謝楯・感謝状の伝達の表彰式典と記念講演を行いました。また、ロビーでは民生委員制度の歩みを振り返るパネルも展示されました。



第65回山梨県社会福祉大会

多年にわたり社会福祉に 尽力されてきた方々の社協表彰

式典で県社協会長表彰・感謝状を受賞されたのは次の方々・団体です。

	表彰区分	表彰者・団体数
表彰状 83名 21団体 (計104)	民生委員・児童委員	14名
	民間社会福祉施設役職員	37名
	民間社会福祉団体役職員	21名
	優良社会福祉協議会	1社協
	ボランティア活動功労(個人)	11名
	ボランティア活動功労(団体)	20団体
感謝状 24名 16団体 (計40)	公立社会福祉施設職員	20名
	金品寄付・労力提供(個人)	4名
	金品寄付・労力提供(団体)	11団体
	特別感謝状	5団体

なお、知事表彰は、103名、3団体が受賞され、また中央共同募金会感謝楯・感謝状は、2名、5団体への伝達が行われました。

雄谷良成さん 記念講演

【おや りょうせい】

「いま、ごちゃまぜがおもしろい！」 ～地域共生社会の可能性～



講演する雄谷良成さん

第2部では、社会福祉法人佛子園(石川県白山市)理事長の雄谷良成さんが「いま、ごちゃまぜがおもしろい！」～地域共生社会の可能性～と題して講演しました。

雄谷さんは障害者の働く場や高齢者向け介護施設、カフェ、温泉などの施設を立ち上げ、みんなが「ごちゃまぜ」に生活するコミュニティを築きました。「障害の有無や年齢、性別に関わらず集うことで地域に活気が出て、一人一人に役割が生まれます。互いを信頼し、居心地よく暮らすために何ができるか、地域の人たちと考えています」と語りました。



県社協会長表彰



会場に詰めかけた参加者

いきいき山梨ねんりんピック2017

明るく元気で楽しく 世代を超えて交流

9月30日(土)に「いきいき山梨ねんりんピック2017」が開催されました。

この大会は、お年寄りから子どもまで、世代を超えて交流を深めることを目的に、いきいき山梨ねんりんピック実行委員会(事務局:山梨県社会福祉協議会)主催で、甲府・小瀬スポーツ公園をメイン会場に毎年、開催しています。

この日は、60歳以上の皆さんが参加できるラージボール卓球や太極拳などの各種スポーツ交流大会、囲碁や将棋などの文化交流大会が行われました。

子どもたちと一緒に参加できる「三世代交流」をテーマに、凧づくり、絵手紙、切り絵、押し花などの体験コーナーや、高齢者の皆さんが教えてくれる昔懐かしい遊び、その他さまざまなイベントを通じて世代を超えた交流を深め、楽しい一日を過ごしました。



切り絵



グラウンド・ゴルフ



ゲートボール



ジョギング



パウンドテニス



剣道



囲碁



ミニコンサート



フライングディスク



出展ブース



押し花



福祉車両の展示

第30回

全国健康福祉祭

あきた大会



©2015 秋田県だんご子



開会式

高齢者を中心にスポーツや文化を通じて相互の交流を深める「全国健康福祉祭あきた大会」が、9月9日から12日まで秋田県内13市3町2村で開催されました。

山梨県からは、芦澤敏久団長（県社会福祉協議会会長）ら161名が参加し、20種目の競技に参加しました。

開会式当日は、快晴に恵まれ、野呂瀬秀旗手（ウォークラリー）を先頭に、風林火山の手旗を高々と揚げ、秋田市立雄和小学校の児童たちと笑顔あふれる入場行進を行いました。

翌日からの各競技では、県勢は、ゲートボールで優勝した他、いくつかの種目で個人優勝や上位入賞、また健康長寿のあかしである高齢者賞を受賞するなど、日頃の練習の成果を発揮するとともに、スポーツを通じ、他県の選手との交流を深めました。また、文化交流の美術展にも本県の代表作品を出品し、書の部門で入賞しました。



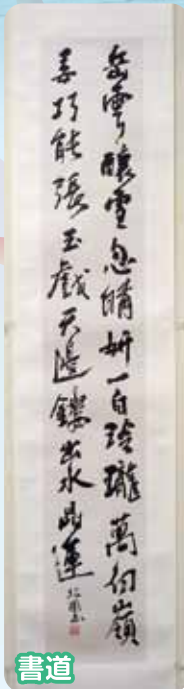
テニス



剣道



卓球



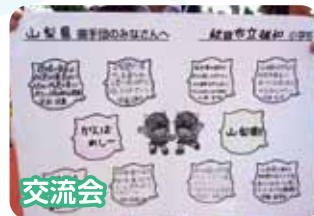
書道

第30回全国健康福祉祭あきた大会 山梨県勢の主な成績

優勝	ゲートボール(全体 1位)	イクちゃん会(南アルプス市)
優勝	水泳(70~74歳の部 男子 25m 50m 背泳ぎ)	花形 善幸(甲府市 70歳)
優勝	水泳(80歳以上の部 男子 25m 50m バタフライ)	松本 弘(中央市 81歳)
優勝	マラソン(70歳以上の部 女子 5Km)	齋藤ひろ子(甲斐市 70歳)
準優勝	ウォークラリー(高齢者の部)	甲斐楽遊子チーム
第3位	水泳(80歳以上の部 男子 50m 自由形)	鈴木 桂(甲州市 86歳)
第3位	水泳(80歳以上の部 男子 50m 平泳ぎ)	梶原 勤(山梨市 84歳)
第3位	水泳(60~64歳の部 女子 50m 自由形)	小林喜代美(中央市 60歳)
第3位	マラソン(70歳以上の部 女子 10Km)	土屋 知子(甲斐市 70歳)
第3位	健康マージャン(第1ブロック 3位)	曾谷 年和(甲府市 73歳)
優秀賞	ソフトバレーボール(2位グループ 第4ブロック1位)	笛吹チーム
優秀賞	囲碁(男子くろまつブロック 17位)	三井直治朗(甲府市 83歳)
優秀賞	囲碁(男子あきたすぎブロック 6位)	北村 幾三(甲府市 82歳)
特別賞	テニス(男性高齢者賞)	鶴岡 孝蔵(忍野村 81歳)
特別賞	ペタンク(男性高齢者賞)	坪井 茂雄(甲斐市 87歳)
特別賞	水泳(男性高齢者賞)	鈴木 桂(甲州市 86歳)
特別賞	軟式野球(男性高齢者賞)	藤森 辰夫(北杜市 80歳)
特別賞	マレットゴルフ(男性最高齢者賞)	塚原 幹郎(甲斐市 86歳)
特別賞	マレットゴルフ(女性高齢者賞)	久保みよ子(甲斐市 82歳)
特別賞	囲碁(女性最高齢者賞)	古屋 京子(甲府市 87歳)
特別賞	サッカー(秋田市特別賞)	幡野 進(甲斐市 67歳)
特別賞	サッカー(にかほ市特別賞)	平賀 和久(甲斐市 66歳)
●美術展		
金賞	書の部	望月 紀枝(南部町 77歳)
最高齢者賞	写真の部(男性最高齢者賞)	石川 利政(甲府市 92歳)



ゲートボール優勝のイクちゃん会



交流会



交流会



交流会



帰県報告会



閉会式



生活困窮者自立支援事業 制度普及研修会を開催

県内全域の方を対象とした生活困窮者自立支援事業制度普及研修会を10月24日、山梨県立文学館講堂において開催しました。

制度施行3年目となる生活困窮者自立支援制度について、事業の概要説明と、これまでの相談実績の報告を行うとともに、著書『下流老人』などでも知られる、NPO法人ほっとプラス代表理事 藤田孝典さんによる講演「生活困

窮者自立支援制度における地域の関わり～誰もが暮らしやすい地域づくりとは～」を行い、日本の困窮世帯の実態や社会保障の充実の必要性など熱心にお話いただきました。

長時間に及ぶ講演でしたが、“もっと聞きたい”“地域づくりにも強く関心を持つことができた”など、大変多くのご意見が寄せられました。



約220名が参加した研修会



講演をするNPO法人ほっとプラス代表理事の藤田孝典さん



福祉用具、住環境の整え方を研修

介護実習普及センターでは介護支援専門員等ケアに関する情報を持つ専門職と建築関係の方を対象に福祉用具や住環境の整え方(住宅改修等)の研修を2日間にわたり開催しました。介護を必要とする方にとっては、使う福祉用具や住環境が生活の質に大きく関わります。住環境を整える方法の1つである住宅改修についても効果的に行えるように、住宅改修計画の立て方も学びました。

1日目

講師に2名の福祉用具プランナー管理指導者を迎え、高齢者の身体特性や障害、福祉用具について学びました。

住環境の条件と福祉用具の関係について、実際の場面を想定して体験しました。

2日目

グループに分かれて、実際に存在する家の間取りで住宅改修計画を立てました。



病気発症後の身体の状態と、これからの生活を考えながら意見を出し合いました

グループ毎にどんな場所を改修するか、どんな福祉用具が必要かについて発表しました



参加者の声

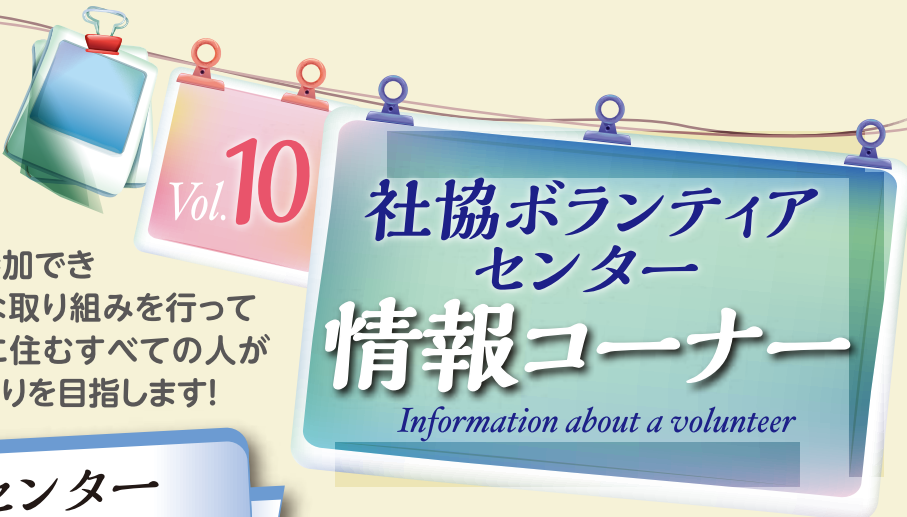
- ★実際に狭い通路を車椅子で通る等実践ができて良かった。
- ★他職種の方々と意見交換が出来て良かった。
- ★手すりの色と壁の色のコントラストなど面白い話が聞けた。
- ★凶面を見ながら利用者家族の立場になって考えることができた。



車椅子での移動場面



浴槽に入る場面



甲州市ボランティアセンターでは、甲州市内のボランティア活動の発展・強化を目的に、いつでも誰でも参加できるボランティアの拠点として、様々な取り組みを行っています。共に支え合うことで、地域に住むすべての人が心豊かに暮らすことができるまちづくりを目指します！

甲州市ボランティアセンター

《ボランティアの相談、登録、斡旋》

ボランティアコーディネーターが人と人とを結びつけ、豊かな地域づくりを目指しています。

- ★ボランティアに関する相談、登録の受付及び斡旋、調整作業
- ★ボランティアボードの活用
- ★出張ボランティア相談窓口の開設(ボランティア事務所)

《ボランティアの広報、啓発》

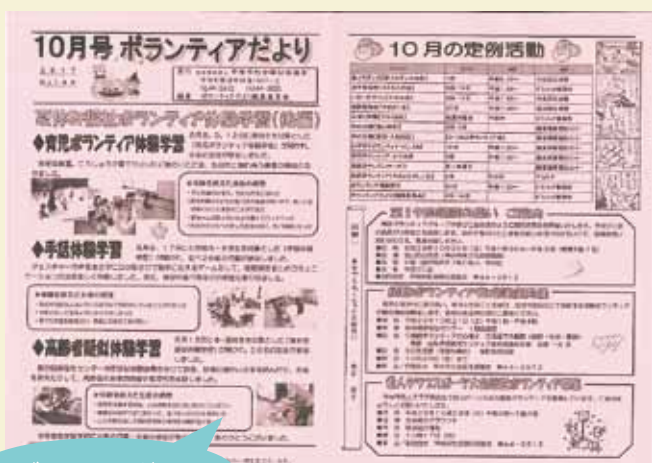
毎月の広報誌発行やボランティアボードでの情報提供を通して、ボランティアの啓発に努めています。

- ★ボランティアだよりの発行
- ★情報の広報及び掲示(ボランティアボードの設置)

《ボランティアの育成》

様々な講座や事業に取り組み、ボランティアの育成や青少年のボランティア活動にも力を入れています。

- ★養成講座・入門講座等の開催
- ★福祉講話及び福祉体験学習の実施・調整
- ★夏休み福祉体験学習事業
- ★市内小中高等学校及びボランティアグループへの活動支援・助成
- ★福祉活動用具等の管理・貸出



ボランティアだより



夏休みボランティア体験学習



介護入門講座

甲州市ボランティアセンター

業務時間：月～金曜日
午前8時30分～午後5時15分

<http://www.koshushishakyo.or.jp>

住所：甲州市勝沼町休息1867-2
(勝沼健康福祉センター内)

TEL:0553-44-2612 FAX:0553-44-3035

《ボランティア活動の推進》

きっかけづくりとして「いつでも誰でも参加できる」ボランティア活動を推進しています。また、ボランティア連絡協議会とも連携・協力し市内のボランティア活動の活性化を目指しています。

- ★地域ボランティア活動の推進
- ★声の広報事業
- ★一人暮らし高齢者テレホンサービス事業(安否確認)
- ★エコキャップ収集活動
- ★甲州市ボランティア連絡協議会との連携・協力

■ 「介護記録の書き方」について学びました。

介護記録の書き方(基礎編)を職務経験2年未満程度の方を対象に、下記の日程で開催しました。

【1回目】平成29年 9月26日(火) 受講生28名 【2回目】平成29年10月26日(木) 受講生25名

午前中は、「介護記録の意義」として、記録の効果・必要性・目的・基本的な記録のルール等の講義を受けました。午後は4人ずつのグループに分かれ、各々が発表する内容を記録し、お互いに振り返りを行うことで、記録の「書き方」と「重要性」について実践的に学びました。

【受講者アンケートより】

- 記録の書き方について、基礎的なことがよくわかった。 ●改めて記録の重要性について知ることができた。
- 記録の効果・目的・留意点に分かりやすく理解できた。 ●グループワークを行い自分の欠点をみつけることができた。
- 職場に戻りいま一度研修を踏まえて、取り組み方を見直す機会となった。

■ 福祉人材研修課からお知らせです。

福祉の職場 定着支援セミナーを開催します。

福祉関係の雇用情勢は、他の職種に比べ高い求人倍率を示しています。一方で職員の定着率が低く、将来の法人経営を見据えた人材の採用・育成を戦略的に考える必要に迫られています。そこで、“人財戦略は経営戦略”をキーワードに社会福祉施設や事業所等の管理職、人事担当者等を対象に定着支援に向けた取り組みについて学びます。

【開催日時】平成30年2月8日(木) 午前10時～午後3時

【対象者】社会福祉施設、事業所等の管理・人事担当者、中堅リーダー職員

【受講料】5,000円(県社協会員) 【非会員7,000円】

【会場】山梨県福祉プラザ4階会議室

【申込締切】平成30年1月12日(金)

研修の詳細は、本会ホームページ(<http://www.y-fukushi.or.jp>)をご覧ください。

【お問い合わせ】福祉人材研修課 055-254-8654



■ 地域別小規模就職相談会を開催します

地域を限定して仕事を探したい。自宅に近い所で、空いている時間を活かして仕事をしたい。あるいは、福祉の仕事に関心はあるけれど、まだ具体的な就職活動はしていないという方々に、求人事業所の人事担当者と直接情報交換していただく場を設けます。

ぜひこの機会にご参加ください。参加費、事前申し込みは不要です。

峡南・南アルプス(この地域の求人)……………1月25日(木) 13:30～15:30

山梨県福祉プラザ4階会議室(山梨県甲府市北新1丁目2-12)

峡中 ※南アルプス市除く(この地域の求人)…2月22日(木) 13:30～15:30

山梨県福祉プラザ4階会議室

※参加事業所は、各開催日1週間前より山梨県社会福祉協議会

ホームページに掲載します。<http://www.y-fukushi.or.jp>

※詳細についてはお問い合わせください。

※今年度最後の開催です!!



■ 職場体験事業のご案内

山梨県福祉人材センターでは、福祉・介護の仕事に関心のある方、または資格を有しながら福祉・介護分野に就業していない方々に対して、福祉の職場を体験して頂く機会を提供する「職場体験事業」を実施しています。

詳しくは本会ホームページをご覧ください。 <http://www.y-fukushi.or.jp/>

【お問い合わせ】福祉人材センター 055-254-8654



Goods

福祉用具紹介
あると便利なグッズたち

入浴補助用具

浴そう内すのこ/浴そう内いす

■ 価格 37,692円(税込)

(間口:450mm×奥行:350mm×高さ:150mmサイズの例) ※寸法オーダーによって価格が変わります。

浴槽の形状、使用する方、在宅・施設など使用場所に合わせて、ミリ単位でオーダーができます。浴槽の形状に合わせてすき間なく製作することが可能なので、足場の見えにくいお湯の中でも安心して浴槽への出入りができます。ステンレスタイプにプラスチックをコートしたフレームなので、丈夫で軽く、また錆びにくく衛生的です。お湯の中へは、自重で沈むので、吸盤が付かない浴槽でも使用できます。足は、すべり止めゴム仕様のアジャスターで高さ調節ができます。



Check Point

浴そうが深すぎる場合など深さを調節したい時に使用します。浴そうへの出入りが困難な方、浴そうからの立ち上がりが困難な方、浴そうの中で膝や股関節が曲がりにくい方を補助します。

入浴補助用具

フォーアクセスすのこ

■ 価格 31,752円(税込)

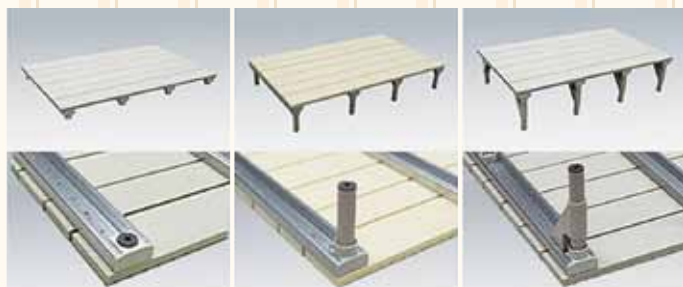
(間口:1000mm×奥行:500mm×高さ:50mmサイズの例) ※寸法オーダーによって価格が変わります。

洗い場の広さ、形状に合わせてオーダーが可能です。表面の勾配の付いた溝が水を誘導し、素早く排水することができます。ボード表面は平らなため、シャワーキャリーも安心して使用できます。ボードは軽量で丈夫なポリスチレン製でできています。脚部と天板が一体型構造で、取扱いが容易で便利です。アジャスター付で凹凸形状の洗い場にも対応できます。グレーチング(排水溝)タイプを浴室の入口付近にセットすれば、水はねを軽減することができます。



Check Point

脱衣所と浴室の段差を解消したい時、浴そう縁の高さを低くしたい時、シャワーキャリーの移動をサポートしたり、歩いて浴室内に入る際の転倒リスクを軽減します。



50~70mmのオーダー
アジャスタ調整幅15mm

71~160mmのオーダー
アジャスタ調整幅25mm

161~225mmまでオーダー可能
アジャスタ調整幅25mm
脚保持部品仕様

■ 優遇処置

上記の2つの福祉用具はいずれも介護保険制度の特定福祉用具購入対象品となります。「要支援1・2」「要介護1~5」の認定を受けている方で、在宅サービスを利用する方は、福祉用具購入に掛かる費用を受給することができます。購入費用は年間10万円(税込)を限度とし、全額一旦支払い、後に9割分または8割分が償還払いされます。(年間とは毎年4月1日から翌年3月末日までの1年間を指します。年度が変わると新たな利用が認められます。)



善意をありがとう

福祉車両の寄贈

ネットヨタ山梨株式会社(磯部俊之代表取締役社長)様より、創立50周年記念事業 福祉車両助成事業として、福祉車両(トヨタヴォクシー車椅子仕様車タイプ)

車椅子2脚仕様)1台を、社会福祉法人四葉会フォーリーブス甲府(功刀光紀理事長)様に寄贈いただきました。ありがとうございました。



社会福祉法人四葉会 功刀光紀理事長(左)
ネットヨタ山梨株式会社 磯部俊之代表取締役社長(右)

車椅子用体重計と福祉巡回車の寄贈

生命保険協会山梨県協会(山本浩実会長)様より、車椅子用体重計1台を、社会福祉法人しあわせ会・障害者支援施設白州いずみの家へ、福祉巡回車を富士河口湖町社会福祉協議会と富士吉田市社会福祉協議会へ1台ずつ計2台を寄贈いただきました。



生命保険協会山梨県協会様は、CR(コミュニティ・リレーションズ)活動として平成4年より会員各社にて「ふれあい募金」を実施し、集められた浄財を原資にして車椅子用体重計と福祉巡回車を寄贈いただいています。

車椅子用体重計の贈呈は今年で5年連続で5台、福祉巡回車は今年で26年連続で46台となりました。ありがとうございました。



福祉のおしごと マatchingカフェ

採用予定のある事業所と、お仕事を探しているあなたをつなぐ個別面談・相談会を行います。

- 1月の予定 10日(水) 医療法人 仁和会 竜王リハビリテーション病院 他
17日(水) 株式会社ワンライフ 夜型デザインサービスワンライフ
24日(水) 社会福祉法人 善隣会 特別養護老人ホーム 尚古園
31日(水) 医療法人 藤和会 斉藤医院 しらね指定居宅介護支援事業所
- 時 間 14:00~16:00
- 会 場 山梨県福祉プラザ4階 福祉人材センター
- お問合せ先 福祉人材センター ☎055-254-8654

貸し出し 図書紹介

絵で見てわかる
かみやすい
飲み込みやすい
食事のくふう



- 食事指導 山田晴子
- 絵 横田洋子
- 発行所 女子栄養大学出版部
〒170-8481 東京都豊島区駒込3-24-3
Tel 03-3918-5411
ホームページ <http://www.eiyo21.com>

高齢になって、食事が食べにくくなってきた人に、安全でおいしく食べやすい食事の工夫を紹介しています。食事が食べにくくなった人は、食べ物の間違って気管や肺に入ることによって起こる「誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)」や、栄養が偏って栄養不足にもなりかねません。いつも食べている料理をどう工夫したら噛みやすく飲み込みやすくなるかという調理のポイントを、料理別にひと目でわかるようにイラストで表してあります。高齢者の皆さんが、いつもの料理を安心しておいしく食べていくための一冊になっています。

このほかにも介護・看護・福祉についての本(約300冊)やビデオ・DVD(約200本)を貸し出しております。詳しくは県立介護実習普及センターにお問い合わせください。
☎055-254-8680

広報誌「やまなしの福祉」を
パソコンやタブレットで閲覧

広報誌「やまなしの福祉」は、本会ホームページでPDF版の閲覧ができるほか、電子ブックでもご覧になれます。

ホームページ <http://www.y-fukushi.or.jp>

1月号は
以下の通りです。

1月号のID
yfukushi339

Android用



iOS用



※パスワードは必要ありません

幼稚園 福祉施設等でも活躍!
ウイルスによる食中毒の対策に!

柿渋パワー製剤
アルタンノロエース

2012.9 特許取得

食品や調理器具をはじめ、施設内の人が手をふれる場所全ての衛生管理に

アルタン 検索

現場の声をカタチに...いつもアルタンから。
アルタン株式会社
東京都大田区東船場 3-11-10 TEL 03-3743-5705

広島大学との共同研究で開発されたエタノール製剤・食品添加物です。